

ワイド



日帰りキャンプ

勉強でもスポーツでも、歌やダンス、演劇でもどんなことでもいい。とにかく夢中になれること、熱中できるものがあるって素晴らしい。子どもたちのこんな気持ちをサポートする大人たち、グループが県内にはたくさんある。そんな場所、グループを訪ね、子どもたちが夢中になっている姿を伝えていく。

冒険で味わう満足感

裕代さん(56)が「岩を良く見て、手をかけたり、足を置く場所を考へて登るんだぞ」と声を掛ける。子どもたちは、岩の出っ張りをつかんだり、くぼみに足をかけ、体を押し上げる。左側は深く切れ



滑りやすく、崩れやすい岩の上を歩く子どもたち

【おとり】連載の「おもしろ子ども文化」は休みました。・南小二年の上原慧透君は「前に来た時はカモシカの骨を見つけた。今日は崩れたところがあって、穴があった。ちょっと怖かった」。来るたびに新たな発見があり、そこに楽しさを見つけたよう

落ちたがけ、緊張感が走る。岩を登る子どもたちはNPO法人じゃんけんぽん主催の日帰りキャンプ参加者。今回は小学生低学年を中心に、保護者も含めて二十七人が参加した。大猿川中流の宿泊施設「おおさる山乃家」を出発して、源流近くにある「乙女の滝」「大猿の滝」までを往復するのだが、この日のプログラムだった。

行程は片道一時間半程度。しかし、登山道

には冒険の連続だ。前橋・総社小三年の吉岡龍展君は「初めて来た。川の近くで滑りそうだったし、川の中にも入ったけれど楽しかった」と声を弾ませる。日常生活では体験できない緊張感、それ

を克服して初めて得られる満足感。その表情から、そうした気持ちがあふいてくる。「日常にないものがある」

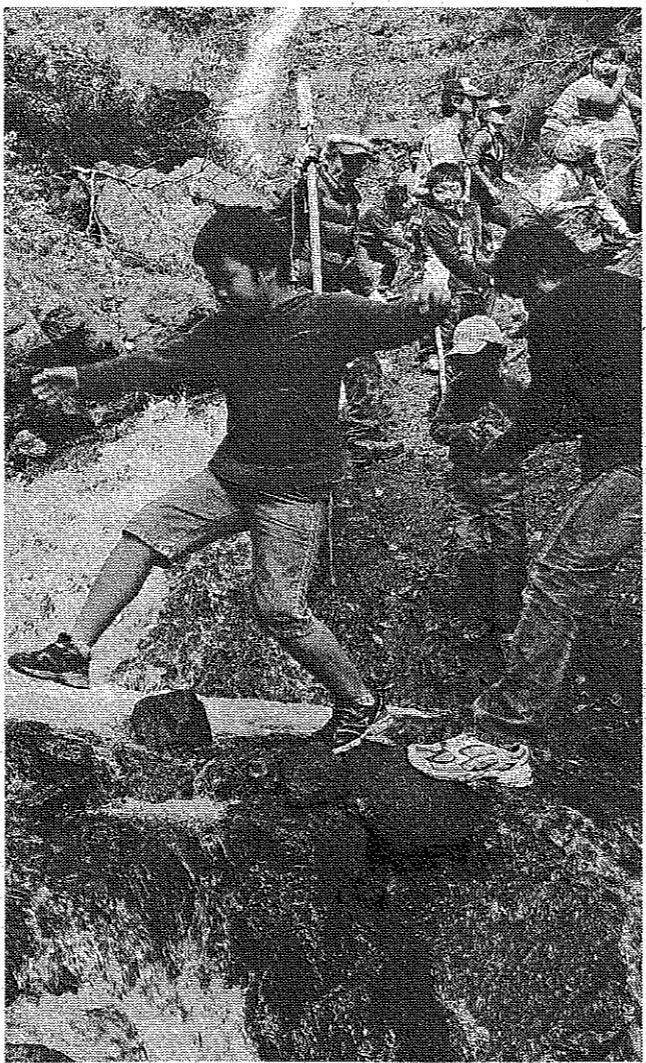
岩登り、川渡り 緊張の連続 前橋市粕川町、赤城山麓を流れる大猿川の源流近く。河原を元気に進んでいた子ども

は杉林から雑木林、河原と変わる。時には大岩を登ったり、滑りやすい丸太の上を歩いたり、勢いよく水が流れる川を渡らなければならぬ。山歩きに慣れた大人にとっては何でもない道でも、子ども

には冒険の連続だ。前橋・総社小三年の吉岡龍展君は「初めて来た。川の近くで滑りそうだったし、川の中にも入ったけれど楽しかった」と声を弾ませる。日常生活では体験できない緊張感、それ

を克服して初めて得られる満足感。その表情から、そうした気持ちがあふいてくる。「日常にないものがある」

前橋・中央小五年の伊東佐保美さんがみんなの気持ちを代弁した。「自分の家の周りではできないこと、見つけられないものがたくさんある。それが楽しい」



勢いよく流れる川を渡る子どもたち

成長見守る親の姿

キャンプの参加者は幼稚園児や小学生だと聞いていた。「それくらいの子でも歩くのだから、整備された遊歩道か車も通れる林道だろう」と思っていたが、歩いたのは登山道だった。この配はそれほどないが、杉林を抜けて河原に出ると、石がごろごろ転がっている。上

流に向かって進むと石の上を歩いて川を渡る場所、一枚岩の上を水が流れている箇所、川幅は狭いが勢いよく流れる渓流をまたぐ場面もあり緊張した。そんな場所に差しかかる、笹田さんの指示のもと、数人の父親が危険な場所に立ち、子どもたちが通り過ぎるのを見守っていた。よほどのことがない限り手を出さない。危険な場所を自分で考えて乗り越えようとする子どもと、それをしっかりと見守る大人たちの姿が印象的だった。(小林 聡)

体験を通して 生きる力を

NPO「じゃんけんぽん」

日帰りキャンプは、グループホームなどを運営するNPO法人じゃんけんぽん(高崎市棟高町、井上謙一理事長)の自然体験部「赤城わらべの谷」が毎月第一日曜に開いてい



参加した子どもたちに一日の予定を説明する笹田さん

データ

- ▷名称 NPO法人じゃんけんぽん 自然体験部 赤城わらべの谷
- ▷代表者 井上謙一
- ▷活動 毎月第1日曜の日帰りキャンプ、第2土・日曜の1泊キャンプなど
- ▷活動場所 前橋市苗ヶ島町の「赤城わらべの谷」、同市粕川町「おおさる山乃家」ほか
- ▷対象 子どもから大人まで
- ▷問い合わせ 赤城わらべの谷(ファクス027・284・0391、メールarabe.tani@world.com.ne.jp)